

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10 No.19 2008年10月31日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

日本タンバーク、1080p 対応テレプレゼンスシステム発表、タンバーク・トータル・テレプレゼンス ソリューションの強化を図る



TANDBERG Telepresence T3

日本タンバーク株式会社(東京都港区)は、ビデオ会議環境の最適化を目的にデザインしたテレプレゼンスシステム「TANDBERG Telepresence T3」、「TANDBERG Telepresence Server」、「TANDBERG Total Services」を10月3日発表した。

TANDBERG Telepresence T3 は、ディスプレイ、カメラ、会議テーブル、会議室環境のレイアウトや色調、室内照明などをトータルにインテグレートした1080p 対応のテレプレゼンスシステム。65インチの大型ディスプレイ3面、1080p 対応のHD カメラを搭載する。

同社では1080p に対応し1面型の2、3名の少人数を対象とした「Telepresence T1」を6月に発表していたが、TANDBERG Telepresence T3 は、より人数の多い規模の会議に対応する。

会議室環境は、専門家の協力により、違和感のないアイコンタクトや、あたかも同じ部屋で同じテーブルを囲んでいるかのような臨場感を作り出すため、1080p HD コーデックやディスプレイなどハードの面だけでなく、壁の色から室内照明、音響などのあり方までトータルな工夫がなされている。コ

ーデックは、標準準拠のビデオ会議システムと互換性がある。

またTANDBERG Telepresence T3に加えて、テレプレゼンスサーバとして「TANDBERG Telepresence Server(タンバーク・テレプレゼンス・サーバ)」を発表。従来のビデオ会議にみられる拡張性の制限や、旧型のビデオ会議システムと接続した際のテレプレゼンス環境の品質低下、標準規格をサポートしている他ベンダー製テレプレゼンスシステムとの互換性などの問題を、同社のポートトランスコーディング技術やテレプレゼンスモード機能などを活用し、クリアしたという。

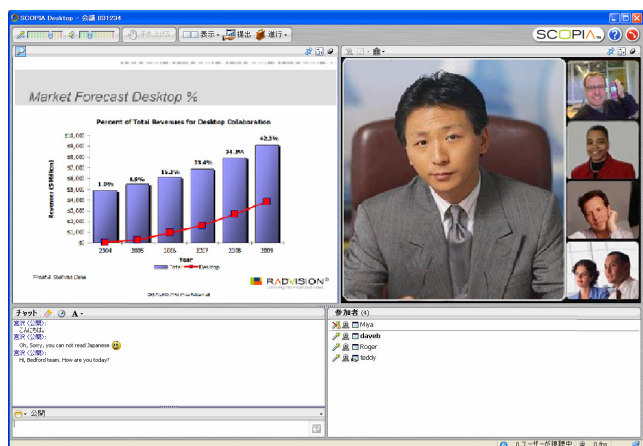
さらに、「TANDBERG Total Services(タンバーク・トータルサービス)」も発表。TANDBERG Total Services では、タンバークの認定を受けたパートナーが、ローカルサイト調査、ネットワーク評価及びプロビジョニング、テレプレゼンスルームの設計と実装、管理サービスオプション、ホスティングサービスオプション、遠隔デバイスの保守サポートなど導入から稼働、保守サポートまでトータルなサポートを提供する考えだ。

「TANDBERG Total Telepresence(タンバーク・トータル・テレプレゼンス)」は、「TANDBERG Telepresence T3」、「TANDBERG Telepresence Server」、「TANDBERG Telepresence T1」、「TANDBERG Personal Telepresence 1700」、「TANDBERG Codec C90 Telepresence」、その他のTANDBERG ブランドサービスを含む各種製品/サービスで構成されたソリューション。

日本における販売時期は、2009年第一四半期、価格はオープン価格を予定している。

*TANDBERG Telepresence T1, TANDBERG Codec C90 製品記事 Vol.10 No.12 2008年6月15日号 p1-p2

ラドビジョンジャパン、HDテレビ会議をデスクトップまで低コストで広げるソリューションと多彩な映像ソリューションを実現するメディアサーバを日本国内で強力に推進



SCOPIA Desktop

ラドビジョンジャパン株式会社（東京都台東区）は、SCOPIA Desktop(スコーピア・デスクトップ)のバージョン 5.6 を 9 月に発表、同社のテレビ会議ソリューションがHD(ハイデフィニション)に対応した。

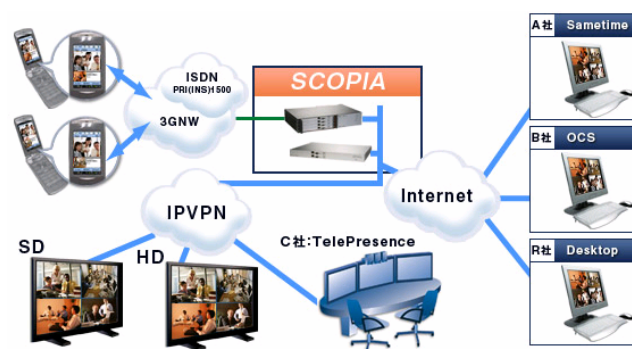
SCOPIA Desktop は、運用管理システム「iView Suite(アイビュースイート)」と一緒に提供されている、PC テレビ会議を実現するプラグイン形式のソフトウェア。プラグインのため最初に PC テレビ会議を行う際に自動で SCOPIA サーバから自動でインストールされる方式をとっている。ソフトウェアは H.323 に対応し、H.239 のデータ共有、会議録画機能などを提供している。

一方、iView Suite は、会議予約と運用管理機能を包括的に提供するシステム。会議の予約管理の他、端末管理、ネットワーク管理、MCU のカスケード接続管理、Microsoft Outlook や IBM Lotus Notes などとの連携もサポートしている。従来の SD テレビ会議、3G テレビ電話、HD テレビ会議、テレプレゼンスシステム(シスコシステムズ製)などのさまざまな端末とのテレビ会議が可能だ。さらにストリーミング機能にも対応している。

「SCOPIA Desktop は、全社規模でのテレビ会議展開のポ

トルネックを解決するソリューションだ。ソフトウェア自体はフリーのプラグインで社員全員のパソコンに簡単にインストールできる。ソフトウェアであっても、専用端末並の映像と音声の品質、そして機能を提供している高性能なソフトウェアだ。」(ラドビジョンジャパン)

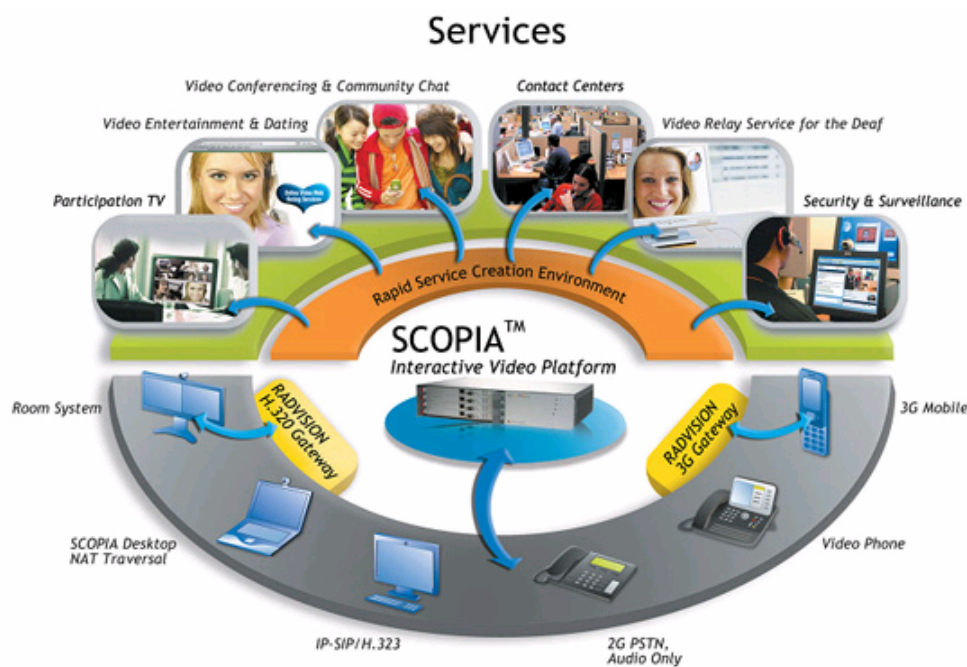
ただし SCOPIA Desktop を使用するためには、同社の SCOPIA シリーズで提供している多地点接続装置と組み合わせることが前提になる。テレビ会議の規模に応じて同社では SCOPIA100 MCU12/24(小規模向け、12 ポート/24 ポート)及び SCOPIA400 MCU 48/72(中規模向け、48 ポート/72 ポート)を提供している。それ以上のポートが必要な場合は、MCU 同士を組み合わせるカスケード方式で大規模な導入にも対応する。複数の MCU をカスケードする場合、あたかもひとつの MCU のように運用管理(パーティキュラー MCU と呼ぶ)することもできる。



ユニファイドテレビ会議

「SCOPIA Desktop を使用するためには当社の SCOPIA MCU が前提になるが、Web ブラウザーが使えるネットワーク環境であればファイアウォールは問題なくスルーするし、またコストの点においても、ソフトウェア型で専用端末並な高品質なテレビ会議が全社展開できることを考えれば非常に低コストでテレビ会議の導入ができると思う。」(ラドビジョンジャパン)

また同社ではテレビ会議ソリューションの他、映像を使ったコールセンターや遠隔教育、テレワーク、ホームセキュリティ、緊急連絡、ウェブサイトへの映像組み込みなどのソリューションも開発提供している。それらのアプリケーション



Network

ンを提供できる SCOPIA のエンジンに同社が独自に開発したLinux ベースのソフトウェアが組み込まれたメディアサーバ「SCOPIA IVP(Interactive Video Platform、インタラクティブビデオプラットフォーム)(上：概念図)」も提供している。アプリケーションレベルで統一された各種 API が用意され、その API で簡単なプログラミング(XML)するだけでコールセンター、遠隔教育、ホームセキュリティなどのアプリケーションを簡単に実装できると同社では説明する。

その際の接続するビデオ端末の画像フォーマット(テレビ会議、パソコン、3G 携帯電話、Web カメラ、Flet's フォン他)のタイプやそのプロトコル(H.323、SIP)に関する高度な専門知識は SCOPIA エンジンが自動処理するため全く不要。さらに課金システムとの連動や IMS(IP Multimedia Subsystem)にも対応している。

「今後の NGN も視野に入れた次世代のメディアサーバだ。映像を使ったアプリケーションを即座に実装できるため、企業内の用途以外にも、サービス提供事業者やインターネット接続事業者などが提供する ASP サービスにもプラットフォームとして採用していただけたと考えている。」(ラドビジョンジャパン)

ラドビジョンは、1992 年にイスラエルに設立されたベンチ

ャー企業。IP でのビジュアルコミュニケーションに事業を特化することで、テレビ会議業界や ITU-T でのテレビ会議関連の標準化作業では主要な役割を果たしてきた。事業としては、H.323 や SIP 関連の開発キットやテストツールのライセンス、またそれらのプロトコル技術を活かしたテレビ会議向けインフラ装置(MCU など)を SCOPIA ブランドで全世界に販売している。

日本ではネットワンシステムズ株式会社、VTV ジャパン株式会社、NTT アドバンステクノロジー株式会社など 8 社と提携し日本でのビジネス展開を行っている。「今後も日本ビジネスの拡大を図っていききたい。現在の 8 社に加えアプリケーションや市場セグメントの強みに応じて新たなパートナーシップも模索したいと考えている。」(ラドビジョンジャパン)

NEC エンジニアリング、14khz 音声、多地点機能、PoE、無線 LAN などの機能強化を行った IP 音声会議システムを発表



Voicepoint AEC-70M

NEC エンジニアリング株式会社(東京都品川区)は、音声会議システム「Voicepoint IP(ボイスポイントアイピー)」シリーズにあらたに3機種をラインナップに追加した。多地点機能を搭載したモデル「AEC-70M」、エントリーモデル「AEC-70」、PoEに対応したモデル「AEC-70P」。

AEC-70Mは、多地点機能を標準搭載した機種。AEC-70は、その多地点機能を搭載していないエントリー機種になる。またAEC-70Pは、AEC-70をベースにPoEを搭載した機種になる。AEC-70Mには、ハンドセット用アダプタやPHS/携帯電話接続ケーブルを標準に装備している。

今回発売された3機種は、現行機種AEC-60Iに比べ、性能と機能を強化しつつ、手持ち運びしやすいハンドルタイプのデザインを採用し端末のデザインを一新した。本体4ヶ所にマイクを内蔵。本体のボタンメニューやLCD画面には漢字やアイコンなどで表示。また、本体バックパネルには、各種音声入出力に対応している。

特長としては以下のとおり。(1)IP多地点モデル(AEC-70M)をセンター局として自局を含む最大6地点をIP電話で同時に接続することが可能になった。ちなみに、現行機種AEC-60Iの4拠点对応から増えたことになる。またAEC-70Mは、センター局から各地点のマイクをリモート制御するリモートマイク制御(RMC)を搭載。朝礼など一斉ミュートが必要な用途に便利と同社では説明する。

多地点機能は、AEC-70Mのみ標準搭載。AEC-70は、オプションで搭載も可能。

(2)音声符号化方式G.722.1C(Polycom Siren 14からITU-Tにて標準化された方式)スーパーワイドバンド音声の14Khzを採用。AEC-60Iでは7Khzまでサポートされていた。

(3)音声ミキシング機能。異なる回線種別間でも音声会議を可能とする。「IP電話+アナログ電話」、「アナログ電話+オーディオ接続」、「オーディオ接続+IP電話」の3パターンから選択できる。オーディオ接続とは、PHS、携帯電話、パソコンのいずれかを接続して使用する機能を指す。たとえば東京を起点に札幌と福岡の3拠点を多地点で接続した場合、東京-札幌間は電話回線、東京-福岡間はIPネットワークを使用するといった混在が可能になる。

(4)IEEE802.3afに準拠したPoE(LAN HUB 給電)。PoEモデル「AEC-70P」が対応。PoEは、LANケーブル経由で

接続した機器に電力を供給する技術。専用ACアダプによる給電以外にもLANからの給電が可能になる。

AEC-70Pは、受注生産機種。

(5)Web画面機能をサポート。Web画面機能を搭載し、LANに接続したパソコン画面を見ながら、メニュー設定、電話帳などの操作・登録をwebブラウザから簡単に行える。また作成した電話帳データはPCでのファイル保存(CSVファイル)や読み出しが可能のため、従来は1台1台登録が必要であった電話帳も、今回発売される新製品では、LANを経由し同じ電話帳を複数台に容易に登録できるようになった。電話帳は漢字登録が可能。

(6)オプションで無線LANに対応。無線LANセットを2009年1月発売予定。無線LANカードインタフェース(SDIOタイプ)搭載。

(7)本体バックパネル接続インターフェイス。携帯電話、パソコン、ICレコーダ、ヘッドセット、スピーカ、マイクミキサなど豊富な音声入出力に対応。またアナログ電話用やハンドセット用のアダプタにも対応。

価格は、AEC-70MとAEC-70Pが188,000円(税抜き、以下同)、AEC-70が148,000円。

受注については、AEC-70MとAEC-70が10月14日より、AEC-70Pは、2009年1月より開始。出荷は、AEC-70Mが11月11日から、AEC-70とAEC-70Pは、2009年1月から。

*Voicepoint AEC-60I 製品記事 Vol.7 No.18 2005年10月15日号 p1

沖電気工業のVisual Nexus、4CIFと16画面分割などに対応したバージョン4.0を発表

沖電気工業株式会社(東京都港区)は、ビデオ会議システム「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」の映像機能を強化した「Visual Nexus ver4.0」を発表した。

Visual Nexusは、会議サーバとPCクライアントで構成されるビデオ会議システムで、H.323やSIPに対応しており、既存のビデオ会議専用端末とも接続できるのは特長のひとつ。また会議サーバ単体でも販売されている。

今回の新しいバージョンによって4CIF解像度(704 x 576)に対応するとともに画面合成を最大16まで拡張した。

「また販売価格を旧バージョンから据え置くことで価格性能比を大幅に向上し、従来の高解像度ビデオ会議システムの市場価格と比較して約 2 分の 1 の導入コストで構築が可能になった。」(沖電気工業)

従来の映像解像度は、最大 CIF(352 x 288)であったが、4CIF 解像度に対応することで、カメラの対象物の細部まで映し出すことが可能になり、ビデオ会議での臨場感の向上や機械部品や図面などの用途での応用が期待できると同社では 4CIF のメリットを説明する。



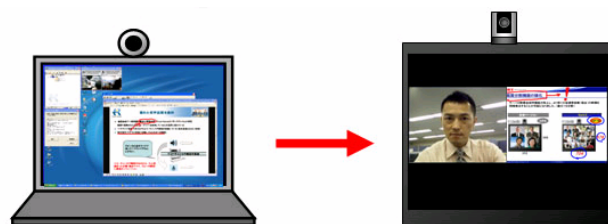
写真上：16 画面分割、写真下：話者強調とテキスト・イン・ピクチャー

最大 16 画面の映像合成とは、Visual Nexus のサーバ上で、1画面に最大 16 拠点の映像画面を合成処理し各クライアント端末に配信する機能。この機能により、従来の

バージョンよりも1つの画面に一度に表示する画面数が増え、会議の一体感が向上すると同社では説明する。また複数の画面の中から現在話している拠点の映像をオレンジ枠で囲む「話者強調」機能や拠点の名前を画面上に合成する「テキスト・イン・ピクチャー」機能を搭載し、多地点でのビデオ会議でも誰が話しているのか、分かりやすくなったという。

映像機能の向上の他、今回の新しいバージョンによって、ビデオ会議専用端末とのデータ共有に画面書き込み機能も追加された。PC 上で作成したデータ画面の上に資料の注釈や図形などを書き込むとビデオ会議専用端末上にも書き込み内容が反映されるようになった。Visual Nexus 側から

もビデオ会議専用端末側からでも同じデータを参照しながら会議が行える。



左：Visual Nexus、右：専用端末

今回の新バージョンによる映像の解像度の向上は、通常の会議用とだけでなく、設計、遠隔トレーニング、面接、相談業務など様々な用途への広がりが期待できると同社では考えている。

Visual Nexus のシステム最小構成価格(サーバとクライアント)5 拠点への導入で約 250 万円(税別)から。標準システム構成価格(サーバとクライアント)30 拠点への導入で約 1000 万円(税別)から。サーバ単体(30 拠点)で約 630 万円(税別)から。

沖電気工業では、年間 1500 ライセンスの販売を販売目標としている。

NEC 情報システムズ、ペーパーレス役員会議システムの新バージョンを発表、セキュリティ機能をさらに拡充

株式会社 NEC 情報システムズ(東京都港区)は、会議のペーパーレス化と情報統制を支援するシステム「ConforMeeting/e(コンフォーミーティング・イー)」の新バージョン Ver.2.0 の開発を完了し 10 月 15 日より販売開始した。

今回のバージョンでは、以下の機能が拡充された。

(1)サーバ上に蓄積した会議資料を全て暗号化する機能を追加。また「セキュア会議モード」を追加し、会議資料の閲覧権限を出席者・報告者・ゲスト別に設定可能とした。これらの機能は情報漏洩の防止に貢献すると同社では考える。

(2)会議情報を管理する事務局ツールをウィザード形式の GUI(グラフィック・ユーザ・インタフェース)へ全面的に変更することで操作性を向上させた。

ConforMeeting/e は、NEC の「UNIVERG 役員会議ソリューション」におけるペーパーレス会議システムとして提供されている。会議資料を電子化しその電子資料を会議において参加者間で共有することでペーパーレス化を実現するとともに生産性の高い効率的な会議進行を可能とすることを目的としたシステム。また情報漏洩防止にも効果をもたらすと同社では説明する。

ConforMeeting/e は、会議参加者用のタッチパネル形式のディスプレイと、会議情報管理や運営者用(事務局用)のツールから構成される。参加者のディスプレイでは Microsoft Office ソフトや Adobe Acrobat PDF などのファイルなどのファイル形式に対応し、タッチペンで資料に書き込みなどが行える。また資料の事前登録や会議中の閲覧・手書きによるメモの書き込み、個人へのメモ入り資料の再配布まで、全てを電子データで行い、資料をサーバで一括管理することでファイルへのアクセスを制限、セキュアな情報管理を可能としているという。

ConforMeeting/e は、NEC が定める環境配慮基準を満たした製品として 2008 年 7 月に「エコシンボル」認定を取得している。

ConforMeeting/e 新バージョンの希望小売価格(税抜き)は、350 万円(同時利用ユーザ 10 名ライセンス)からを予定している。NEC 情報システムズでは、今後 2 年間で 5 億円の売上を目標としている。

*役員会議ソリューション 製品記事 Vol.9 No.17 2007 年 9 月 30 日号 p3-p5

*役員会議ソリューション 事例記事 Vol.10 No.18 2008 年 10 月 15 日号 p6-p7

ヤマハ、Web 会議用スピーカーマイクのラインナップ強化

ヤマハ株式会社(静岡県浜松市)は、USB プラグ&プレイ対応 Web 会議用スピーカーマイクの新製品「PJP-50USB」を発表した。発売は、11 月下旬を予定。価格は、115,000 円(税別)。

ヤマハは、これまで会議用マイクスピーカーとして「PJP-100UH」と「PJP-25UR」を販売してきたが、PC ベースの Web 会議システムの導入が進んでいる中、活性化する市場動向に対応するために今回新たに新製品を追加することでラインナップの強化を図る考えがある。



PJP-50USB

PJP-50USB は、8 個の高感度マイクをアレイ状に配置し、ノイズリダクション機能と適応型エコーキャンセラを搭載した中規模会議室向け会議用スピーカーマイク。スピーカーは 4 個搭載し広帯域 20Khz まで対応した。Web 会議でテレビ会議のような話しやすさを実現する。Web 会議以外にもハイデフィニションの会議システムの音声も再現できるという。

マイクをアレイ状に配置することで收音能力を向上させた。アレイマイクのビーム効果により收音距離を広げるとともに、話者方向以外の收音ゲインを落とすことで雑音をカットできる。またノイズリダクション機能によってプロジェクタやエアコンなどの雑音も除去することが可能という。

従来では收音範囲を広げればノイズも増幅されてしまい、広い收音範囲とクリアな音声の両立は困難だったが、「PJP-50USB」ではアレイマイクとノイズリダクションの組み合わせにより広い收音とクリアな音声を実現していると同社では説明する。

また適応型エコーキャンセラは、利用場所の音響環境を学習して内蔵のマイクを OFF することなくエコーの要因となる音のみをフィルタリングするため会話が途切れることなくクリアに再現されるという。

従来の電話会議システムでは、エコーサプレッサー技術が採用されている場合が多く、一方が発話した際に、もう一方のマイクがシステムによって OFF されてしまうトランシーバのような仕組みだという。そういった場合、会話の出だしが切れたり、音声が途切れたりする弱点があると指摘する。これに対して同社では、回り込み音を極小化する構造を採用し、適応型エコーキャンセラを搭載することに

した。

PJP-50USB は、USB プラグ&プレイに対応している。Windows 標準のドライバで PC との接続は USB ケーブル (USB 2.0 full speed) で接続するのみ。Windows Vista/XP Professional/XP Home Edition/2000 の各 OS をサポート。あらたなドライバをインストールする必要はない。また拡張機能として USB テレフォニーにも対応しており、今後対応予定のソフトフォンと連携することで PJP-50USB の 10 キー/受発呼キーで PC にインストールされたソフトフォンを操作することも可能だ。

製品の寸法は、283(W) x 52(H) 298(D) mm。重さは、1.4kg。AC 100V 50/60Hz。専用 AC アダプタ。

セミナー・展示会情報

<国内>

無料 Web セミナー

WebEx を使おう！基礎の基礎！

～ まずはここから WebEx のはじめの一步 ～

日時:11月6日(木)14:00-15:00

会場:Web セミナー

主催:ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社

詳細・申込:

http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_110608.html?SourceId=hpg

IIJ モバイルネットワークフォーラム

～ モバイルで実現する次世代の VPN 活用法 ～

日時:11月6日(木)14:00～17:00(開場13:30)

会場:ホテル 名古屋ガーデンパレス 2 階 鼓の間

主催:株式会社インターネットイニシアティブ (IIJ 名古屋支社セミナー事務局)

詳細・申込:

<http://www.ij.ad.jp/news/seminar/2008/sm081106.html>

*アエスラが WEB 会議ソリューションで出展。

iEXPO 2008

日時:11月11日(火)～13日(木)10:00～18:00

会場:東京国際フォーラム ホール棟

主催:NEC、日経 BP 社

詳細・申込:<http://www.nec.co.jp/uf-iexpo/>

*通信事業者向けネットワーク製品・ソリューション

<http://www.nec.co.jp/uf-iexpo/iexpo/zone.php?p=6>

(会議システム系のソリューションの展示あり。)

第16回 HATS セミナー2008

日時:11月12日(水)13:30-17:00

会場:CIAJ 情報通信ネットワーク産業協会

第B～E会議室

主催:HATS 推進会議

協賛:(社)情報通信技術委員会(TTC)

情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)

詳細・申込:

<http://www.ciaj.or.jp/hats/activity/seminar/2008.html>

最新 HD ソリューションセミナー

Polycom VC2 ～ビジネスの変革を加速するビジュアルコミュニケーションの新しい世界～

日時:11月12日(水)14:00～(開場:13:30)

会場:ホテルニューオータニ ザ・メイン アーケード階「悠の間」(東京)

主催:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/event/081112/>

低コストで、小さな拠点までくまなくカバーする
ビジュアルコミュニケーションとは? Web 会議システム IC3 紹介セミナー

日時:11月20日(木)15:00-17:00

会場:キャンノンソフト情報システム 東京支社(池袋)

主催:キャンノンソフト情報システム株式会社

詳細・申込:

<http://www.canon-js.co.jp/seminar/detail.cfm?no=1109>

* ポリコム社製テレビ会議システムと連携できるオプション製品をリリースに先駆け紹介。

<海外>

IMTC 2008 Forum

“Technology Meets Customer Needs – Unified Communications Supporting Business.”

日時:11月12日(火)～13日(木)

会場:St. Regis Hotel、サンフランシスコ

主催:IMTC(International Multimedia Telecommunications Consortium)

詳細・申込:

http://www.imtc.org/events/2008_11_12_fall_forum.asp

*会場は、VoiceCon 展示会隣接。

InfoComm Asia 2008

日時:11月19日(木)～21日(土)

会場:香港、the Hong Kong Convention & Exhibition Centre

主催:InfoComm Asia Pte Ltd.

詳細:<http://www.infocomm-asia.com/>

*会議システム関連のパビリオンも設置予定。(IMCCA 主催)

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

次号11月15日号は、11月15日夜に発行予定です。レポートしていない記事がまだいくつかありますので次回以降掲載いたします。

CNA レポート・ジャパン 代表 橋本 啓介